

Bibliophiles

ビブリオファイル No.10(2019年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館



『英文徹底解説 ボブ・ディランのノーベル文学賞受賞スピーチ』 畠山雄二

2016年、史上初めてポピュラー音楽のミュージシャンが「詩人」としてノーベル文学賞を受けて大きな話題となりました。本書は、その受賞者のボブ・ディランの受賞記念スピーチの原文と日本語訳、また詳しい解説を載せています。特に自分をシェークスピアと比較しているくだりは必読ですよ。

『五等分の花嫁』春場ねぎ

すでにテレビアニメにもなった継続中の人気漫画ですが、今年、講談社漫画賞を受賞したのを機に、これまで発表の全巻を購入しました。「五つ子の中から花嫁を当てる」という趣向の、異色のラブコメ・ミステリーです。主人公はある事情から勉強嫌いの五つ子の家庭教師となりました。その中の誰かと、彼はいずれ結婚する運命にあるのですが・・・人気の『鬼滅の刃』も入りました。

『車いす・おとしよりのための バリアフリー 京都観光』

これからの京都は観光シーズンですが、一緒に行く人がお年寄りだったり、車いすやベビーカーに乗っていたりすると、行く場所も制約を受けます。この本は、京都のバリアフリーな名所を選んで、階段・スロープ・トイレ・レストランなどを写真付きで詳しく解説しています。

今年も、先生方によって多くの本が選ばれました！

本校図書館は、図書部以外の先生方にも本を選んでいただいています。ここに挙げたのはほんの一部ですが、各教科による特色豊かな選書をご覧ください。社会や体育などは次号にて。

国語科からは、守屋淳『最高の戦略教科書 孫子』。孫子の本は古典でありながら、ソフトバンクの孫氏やビル・ゲイツといったIT関連の企業の経営者たち、またサッカーの元ブラジルチーム監督のスコラーリなどが「戦略の教科書」として愛読しているそうです。彼らを魅了してやまない戦略とは何でしょうか？

次に宮口 幸治『ケーキの切れない非行少年たち』。今話題の本で、児童精神科医である著者は、多くの非行少年たちと出会う中で、彼らの多くはそもそもケーキを等分に切ることもできない「境界知能」であることに気付きます。当然、彼らは勉強にはついていけず、学校では厄介者扱いされ、いつしか非行に走ってしまう・・・そんな彼らを救う手立てはあるのでしょうか？

理科からは生物関係で山田五郎×真鍋真『大人のための恐竜教室』。恐竜は次々に新発見があり、そのたびに姿が変わりますね。ティラノサウルスは昔の映画ではウロコで覆われていましたが、近年の発見で羽毛に覆われたニワトリみたいな姿になってしまいました。でも2017年には再びウロコの姿が発見されることに・・・

化学の先生方からは『13歳からの研究倫理』を。研究はどのようにして進めていくのか、またどんなルールがあるのか、を詳しく学べます。

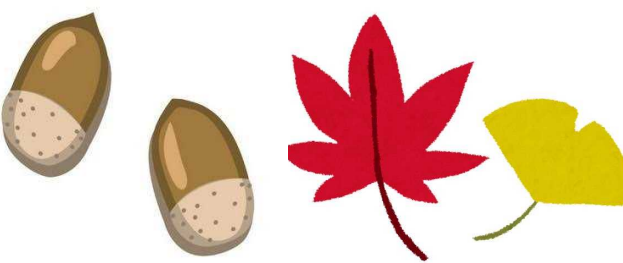
物理の先生方からは、兵庫出身の哲学者・苦野一徳の『「学校」をつくり直す』など、身近なテーマで哲学に触れる6冊が選ばれました。

数学科からは三原和人の漫画『はじめアルゴリズム』をおすすめします。小学5年の数学の天才少年・関口ハジメを主人公とした人気漫画です。

「でも、数学なんて好きじゃないし、退屈そう・・・」と思ったあなたにこそ読んで欲しい作品で、教科書を離れたところで数学の魅力や楽しさを感じられる、レアな漫画ですよ。

数学を離れて『身近にあふれる「危険な生物」が3時間でわかる本』も選ばれています。身近なハチや毒蛇をはじめ、色んな危険生物が学べます。

英語科からは『リアルな英語の9割は海外ドラマで学べる！』。がおすすめです。会話文で“Men.”って言うと、どんな訳が可能ですか？「人間たち」「男たち」・・・それじゃあ、会話になってないですね。これは文脈によっては「ったく、男っていうヤツは・・・」という愚痴になるんです。こうしたリアルな英語を学べますよ。入試でも必要となってくる英語4技能試験対策には、長尾和夫『英語で話す力』などの5冊シリーズを。特に最後の『英語で考える力』は、日本人の苦手とする論理的思考を鍛えてくれる構成です。



今号のひとこと Le acque chete rovinano i ponti.

静かな川は橋を壊してしまう。 イタリアのことわざ

先の台風19号は多くの川で氾濫を起こし、甚大な被害をもたらしました。東京の都心部の多摩川も氾濫したので、驚いた人も多かったですね。でも、考えてみて下さい。大きい川というものは、ふだんは静かなのです。むしろ小川の方が音をたてるんですよ。このことから、「おとなしい見かけにも関わらず、情熱的な、あるいは危険な本性を隠している」人物を、静かな川になぞらえるこのことわざが出来たのです。さしずめ日本語なら「能ある鷹は爪を隠す」といったところでしょうか。

同様のことわざは西欧諸国にありまして、たとえば英語では **Still waters run deep** 「静かな川の流れば深い」と言います。